



ちはやあかさか

議会だより 第63号

とんど



引き継がれている行事（千早地区）

ページ

12月定例会のあらし・請願・常任委員会研修 2～3

いっぱん質問 4～7

研修レポート・編集委員会からお知らせ 8

12月定例会のあらまし

平成14年12月の千早赤阪村議会定例会（第4回）は、12月4日に開会し、条例の制定・改正、一般会計補正予算、意見書などを可決し、18日に閉会しました。

11月臨時会

教育委員会委員の任命

任期満了に伴う教育委員会委員に新田斌子氏（二河原辺119番地）の再任に同意しました。
任期は平成18年11月13日までの4年間で。

人件費の削減

年間約3000万円を削減

今期定例会では、村の厳しい財政状況を踏まえ、特別職及び教育長の給与を5%の減額（平成15年1月から平成17年3月までの間）また、人事院勧告による国家公務員給与の減額改定に伴い、村職員も同様の給与・期末勤勉手当の減額などが提案され、全会一致で可決しました。また、一般職の管理職手当について18%の減額（平成15年1月から平成17年3月までの間）を行うことが併せて報告されました。

意見書

次の意見書を全会一致で可決し、政府関係大臣等へ提出しました。

●北朝鮮による拉致問題の徹底説明を求める意見書

〈提出先〉

内閣総理大臣
外務大臣
国家公安委員会委員長
警察庁長官

●地域雇用対策の強化・改善を求める意見書

〈提出先〉

内閣総理大臣
厚生労働大臣
衆議院議長
参議院議長



議会を傍聴してみませんか

傍聴にはむずかしい手続きはいりません。本会議当日、受付簿に住所、氏名などを記入していただくだけでどなたでも傍聴できます。定員は20名です（先着順）。

次の定例会は3月です。詳しい日程などは議会事務局までお問い合わせください。

72-0081（内線511）

固定資産評価審査委員会

委員の選任

任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員に岡本善三氏（森屋422番地の3）の再任に同意しました。
任期は平成17年12月25日までの3年間で。

常任委員会研修

産業建設

町営ロープウェイの民営化

石川県石川郡鶴来町

鶴来町は金沢市の南15kmにあり、町の南側にある獅子吼高原で、昭和34年町営ロープウェイが営業を開始し、開設当初は北陸でリフトのあるスキー場として利用客も非常に多かったそうです。

その後、近隣5ヶ町村に6つのスキー場が開設されるなどで利用客が減少し、公社への運営委託、下駅舎周辺に世界の獅子頭を展示した獅子ワールド館・レストラン施設など公園整備を

町は補助は、最初の5年間は年間3000万円の補助、次の5年間は3000万円を上限としています。運営はすべてアトム運輸（株）が行っていますが、経営は厳しいのが現状です。

最後に車町長は、「この町は自然豊かで、素朴で、ロープウェイがあるのはここだけです。少しお金がかかっても仕方がないと思います」と述べられたのが印象に残っています。



請願

継続審査

12月定例会に提出されていた、請願「村立小学校の統合に関して十分な時間と慎重さを求める請願」を12月5日と10日の2日間におたつて審査をいたしましたので、その内容についてお知らせいたします。

委員からの質問で、「審査員からの質問で、」

議会は5月発足したばかりで、秋には答申が出されるという異例の早さだ拙速ではないか」という内容になっているが、審議会委員であつた本委員会の委員や教育長への見解と質問に対して、「延べ9回審議会を開催し、夜に開催するなどして、委員の皆さんが出席しやすい環境を作るなど工夫したので、ほとんど欠席もなかった。特に結論を急ぐために発言を無視することもなく、終始穏やかな雰囲気であつたので、拙速とか慎重さを欠いたということはない」との答弁があり、

村立小学校の統合に関して十分な時間と慎重さを求める請願書

平成14年10月9日付けで千早赤阪村小学校問題審議会の答申が出されました。広報11月号にその内容の全文が掲載されていますが、審議会は今年発足したばかりで、もう秋には答申が出されるという異例の早さです。子どもたちへの教育のあり方は村の将来にとって最重要課題であり、何にもまして慎重に進められるべきものであるにも関わらず、すでに結論が出されたということはあまりにも拙速すぎます。教育効果の現れには長い道のりが必要であるのと同様に、教育の在り方の変更は、一歩間違えば回復にその2倍以上の道のりが必要となることもあります。特に、基本的な考え方として「1学年2学級」にするのがよいと声明しているにも関わらず、H18年、H20年には1学級になりかねない状況にあり、このままでは小中を通して9年間1学級となる可能性すらあります。

今、本当に考えるべき点は、教育の質を高めると共に村の将来を担う子どもの数を増やしていくために、なにが必要かを考え、具体的に手を打っていくことではないでしょうか。他の市や町にない地域に根付いた魅力ある教育をする。次の世代が村に帰って来るための条件整備をするなど、様々なことが考えられます。現状に手を打たず、統合で乗り切ったとしても、それは一時的なものではありません。徒歩での小学校通学ができない地区に、新しい住民の移入や子どもの世代のUターンは期待できるのでしょうか。以上のことを鑑み、下記を請願します。

記

子どもの教育は村の将来に深く関わるものであり、村の将来展望との関連において慎重な検討を経たのちに決定されるべきものと考えます。いきなり1校への統合ではなく、いくつかの再編のあり方を検討し、十分な時間をかけて慎重に議論してください。また住民の声を聞く場を設け、いきなりの議決はしないでください。

以上。

別紙 1/4の3 名分の署名をそえて請願致します。

2002年11月28日

千早赤阪村の教育を考える会

代表 畑 徹

住所 千早赤阪村小吹 68-46

電話 0721-72-1891

さらに委員の質問で「答申の中には4校を1校に統合すべきであるとの結論を得た」とあり、さらに「具体的な検討を進めるに当たっては、地域の実情や将来性を勘案し十分な住民理解を求めるべきである」とある。村長も答申を尊重し、これから庁内で充分検討して議会にはかりたいといっている、それでいいのではないのか。また、署名運動をされている方達は「小吹台小学校を残して欲しい」ということで、動いておられるようだが、という問に対して紹介議員は請願者は村立小学校4校を1校にするのが反対だとは一切いっていない。「いきなり1校への統合ではなく、いくつかの再編のあり方を検討し、十分な時間をかけて議論を」という趣旨だ。

このような意見のやりとりがあり、慎重に審査しましたが、委員からもう少し時間が欲しいとの意見が出され、継続審査となりました。

総務民生

小学校統合の経過

― 富山県下新川郡朝日町 ―

村の小学校のあり方を考えていくうえで参考にするため、富山県朝日町を訪ね研修視察を行いました。

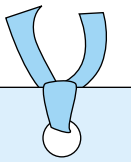
朝日町には、10地区に8小学校1分校がありました。

が、審議会の答申は3校が適当という内容でした。

教育委員会では、3校にするため、3つの校区を設定、それぞれの校区に「教育環境整備対策協議会」を設置、校区ごとに学校の位置、校名、用地買収の協力、特色ある学校づくり等協議し統合を進めています。

昭和62年審議会答申時、8校1分校児童数1344人でしたが、平成6年4月には5校1分校児童数1046人で、現在は4校児童数784人となっています。教育長の話では、「2つの校区は比較的早く合意が得られ統合できたが、残りの校区の統合は地域のエゴが前面に出て対応に苦慮している。しかし、今の少子化の現状から統合はいそがないといけない」と語っておられました。





いっぱん質問

12月議会では、8人の議員が一般質問を行いました。
一般質問の原稿（申し合わせにより500字以内）は、
質問した議員の責任で作成したものです。

豊田圭郎 議員

森本春雪 議員

平成17年4月以降役場は住民票 発行業務だけになる？

問 平成17年4月以降、国は1万人以下の町村は、窓口業務のみにすると言われている。村の状況は厳しい事態になると確信する。

行政を始め議員も合併について重大な責任を負っている。早期合併について村長は、どのようにお考えか。
答 西尾私案では、基礎的自治体は福祉や教育、まちづくりなどの事務を担うた

めの規模と能力が必要だと
の観点から、現在の「市」
を基礎的自治体と位置づ
け、一定規模の人口に満た
ない自治体は解消すべきだ
というのが骨子です。この
私案は村にとっては非常に
厳しい案であり、平成15年
3月にはこの案をたたき台
に地方制度調査会の中間報
告がでると聞いており、村と
しても大変憂慮しています。

合併により村か ら小学校がなくな る？

問 各地区の中央付近には4小学校が点在している。少子・高齢化の時代に小学校を1校に統合する事に大賛成である。

今の小学校のままでは、市町村合併をした場合、他市町の学校に通学しなければならぬ事も起こり得る。新しい小学校を建設して、小中一貫教育をすべきであると考えますが、教育長はどのようにお考えか。
答 小学校の児童数は漸減傾向にあり、小学校の今後のあり方について審議会では幅広い観点から慎重審議を行っていた。今後は村長の指示を受け検討に入っていきたい。

小学校統合をどうする

問 去る10月9日に小学校問題審議会から、村長に対して「本村の小学校4校を1校に統合することが望ましい」との答申が出た。この答申はこれからの村の学校教育にとって大変重要な事である。しかし小吹台小学校を中心に賛否両論が出ている。村長はこの問題に対してどのような基本方針を持っておられるのか。

市町村合併が声高にさげばれている今、特に本村のような人口1万人以下の小規模自治体にとっては厳しい環境になると予測される。今こそ、村の将来を見据えた施策を打って出るとき時ではないか。

答 村の少子化現象はかつてない程深刻だ、今年の出生数は30人を割る状態で、これからの小学校教育に及



赤阪小学校での全校合唱
(写真と記事の内容は関係ありません)

ぼす影響は大きいと考えている。村の第3次総合計画でも小学校の再編統合を示している。それで審議会に諮問した。審議会では真剣に討議し出された答申なので、私は尊重したいと考えている。これからどう進めていくか時間はかかっても庁内で慎重に討議し、住民の皆様は充分理解していただけるよう努力する。



平成17年4月以降の千早赤阪村は？

市町村合併の今後について

〔問〕富田林市の合併問題特別委員会は、来春の市長・市議会選終了まで、合併協議会の休憩を会長に申し入れた。4首長の足並みも揃っていない。合併協議会の解散も含めて検討すべきではないのか。合併について、今後の対応を伺う。

〔答〕当分は合併協議会は開かないが、協議会は存在するわけで引き続き、合併の事務については作業をすすめていく。



合併協議会の後は？

教職員の評価・育成

システムについて

〔問〕府教委は、小中高教職員の評価・育成システムの試験的実施を村教委に依頼している。これは、学校と教職員を「業績」競争にかりたてランクづけすることと教育基本法の改悪の着手につながる。村教育委員会の考えを聞く。

〔答〕この評価・育成システムは、学校の目標をすべての教職員が共有することにより、教職員の主体的な取り組みが、一層意欲的・効果的に進められ、学校が一体となって教育活動が展開されることをめざすもの。今後もこの立場で取り組む。

村立小学校の今後

〔問〕村立小学校をどうするかは村の将来にとってもきわめて重要な課題だ。請願も出され住民の関心も高い。1校への統合について村の方針を問う。

〔答〕「1校に」という審議会答申は尊重する。村長の指示を受けてその検討に入っていきたい。

ソフト重視の村政を

〔問〕今、各自自治体ではバブル時代競って造った施設の除去、売却が進んでいる。大向村政10年、くすのきホール、給食センター、保健センター、幼稚園、いきいきサロンと多くの箱物が出来た結果、積立金の急減、借入金返済、利払いの増、運営維持費増で経常経費（職員の給料等役所の運営に必要な経費）が経常収入を越えた。各施設が十分機能を発揮し、運営ができれば良いが施設が邪魔し合っている。

〔答〕今は車社会、くすのきホールは当初より駐車場不足敷地の一部にいきいきサロンを造った。今は高齢者も車で移動する。300台規模の駐車場を用意しないと両施設は死んでしまう。保健センター建設時、診療所として使用されていたプレハブも、そのまま使用され狭い役場の駐車場をさらに狭くしている。これからの時代は、施設

のソフト（利用技術）を徹底的に研究し利用効果を上げると共に、不要な施設は除去して効率的な行政運営を望む。村長の所見を問う。

〔答〕質問の主旨は理解できる。時代に合った行政運営を行う。



建設中の（仮称）いきいきサロン「くすのき」

新学習指導要領による 学校教育のあり方は

〔圖〕村の総合的学習の実践
内容・児童生徒の土日の過ごし方・基礎教育・学校評議員制度について教育長に新学習指導要領と中教審の中間報告の見解を問う。

〔答〕地域の児童生徒数の実態に即したカリキュラムを作成し実践している。共通として英語活動、情報教育等児童生徒の土日はスポーツや文化的団体活動、部活動、委員会主催の講座等実施している。基礎教育は基礎基本の確固たる定着を実践するよう指導している。評議員制度は今年の4月1日以降設置にむけ調整している。

新学習指導要領は読み書き計算とともに、学ぼうとする力、学ぶ力、学んだ力の育成につながるものと考えている。

中教審の中間報告は審議内容に共感できる内容が多分にある。

〔問〕教育課程実施状況調査



ジュニアリーダースクール

では学力低下が顕著になっているがどう思うか。

〔答〕結果については承知している。国では各教科ごと分析すると聞いている。結果をまっとう指導を徹底する。

〔問〕私の理想は読み書き計

算を反復学習して全員が百点取れるよう工夫してほしい。それが生きる力の基本になる。

〔答〕教育現場としては、どの子にも解る教育を徹底したい。

予算編成で 介護保険料の 軽減などを

〔問〕村長は厳しい財政状況から重点予算配分で施策をすすめるとしてきました。財政見通しと来年度予算編成の方針は。

〔答〕15年度予算は、物件費などを前年比10%減の編成にむけ査定をすすめています。まちづくりなどは総合計画実施3カ年計画により、具体的に予算化していきます。寄せられている要望も編成の参考としたい。

〔問〕福祉面では、介護保険料見直しがあり、引き上げは高齢者の負担が増えます。

保険料減額に、適用基準を簡単明瞭にして対象を広げ負担を軽減する考えは。

〔答〕給付サービス量により保険額が異なります。一般財源でみることは、財政事情から難しい。

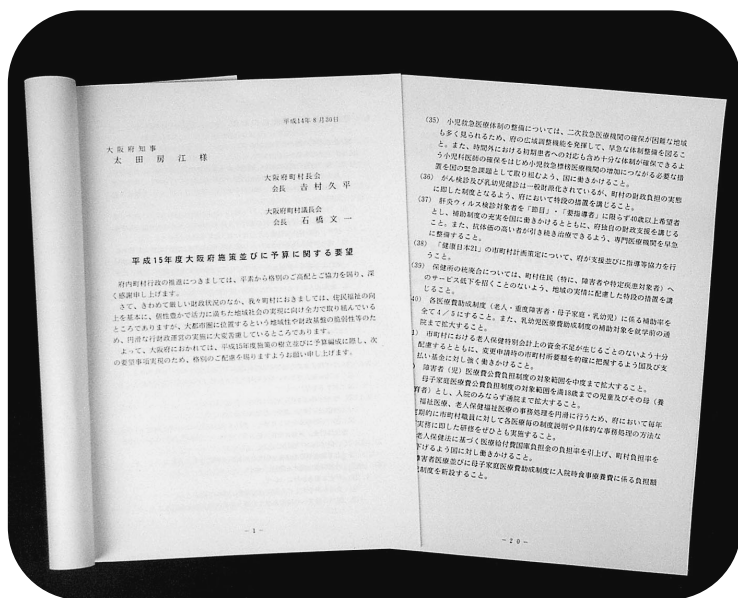
府の医療助成 縮小計画に反対を

〔問〕府は9月に、老人医療65から69歳は3割負担に障害者、母子、乳幼児の医療助成は月1000円までの本人負担と市町村への補助率減など医療助成縮小計画をだしています。影響は。

〔答〕府は新聞報道を最終的でないとする事で、影響は明らかでない。

〔問〕選挙があり1年先送りだけ、10年間現行で770億円増は、関空2期工事の1173億円でおつりがきます。町村長会も反対しています。

〔答〕補助率変更の負担が大きく町村長会を通じて府へ要望しています。



町村長会も見直しに要望

障害者の生活の場を 広げるために

〔問〕 来年4月から障害者福祉が措置制度から支援費制度に変わり、これまでの福祉水準が後退するのではないかと心配されている。申請状況や今後の対応を伺う。

山ゆり作業所の運営は、通所者数や府の事業に左右されるのではなく、村が責任をもつべきだ。

富田林市に建設された、

障害者療護施設は関係者に期待されている。運営への支援を。

〔答〕 現在3人申請されており、後退することはないと判断している。山ゆり作業所は府の補助を活用しながらこれまでどおり運営するよう努力する。

療護施設への運営補助は考えていない。



身体障害者療護施設「梅の里ホーム」(富田林市)

人口増に つながる

施策を

〔問〕 人口減少が止まらず、村政運営に影響が出ています。第3次総合計画では、人口8000人を目標にしているが、具体的な施策を伺う。

日本共産党がこれまで提案してきた、2世帯住宅建設への融資・助成、空き家住宅の情報提供、若者向け村営住宅、奨学金制度など検討すべきだ。

〔答〕 生活環境整備をすすめ農業振興や観光で魅力ある村をめざしていく。

〔要望〕 村で生まれ育った子どもが、この村で世帯を持つ、循環型の村政に切り換え、財源について、村の資源で産業をおこし自主財源の確保に努めるべきだ。

村の教育コミュニティは

〔問〕 平成14年度から地域教育協議会が立ち上がると聞いており、現段階の状況は。

〔答〕 先月に第1回目の企画委員会を開催し、企画委員は教育コミュニティディレクターとして民間ボランティアの3名、村内各学校教育委員6名、教育委員会事務局2名の計11名です。全体計画として、機関紙の発行や総務委員会の開催、また、地域教育支援活動、子育てネットワーク、学校教育支援活動の3つの委員会の開催について検討されました。

〔問〕 今後の活動の方向性は。

〔答〕 当面は、リーフレットや機関紙での周知活動や情報発信、子どもたちに関わって頂いております団体や機関のみなさま方の情報交換の場の提供等が中心となります。学校園内外を問わず、子どもたちの様々な活動がより広く、充実したものになるよう、関係者と共に努力していきます。



中学校地域清掃活動

〔要望〕 学校教育の中でも、子どもたちの感性を高めたり、主体性を身につけたり、興味や関心を引き出すためにいろいろな体験が重視されると考えられるが、本村

においても中学生が体験学習として職業の体験する取り組みがされて、これらを支援するような環境を作ることなど要望する。

研修レポート

無党派

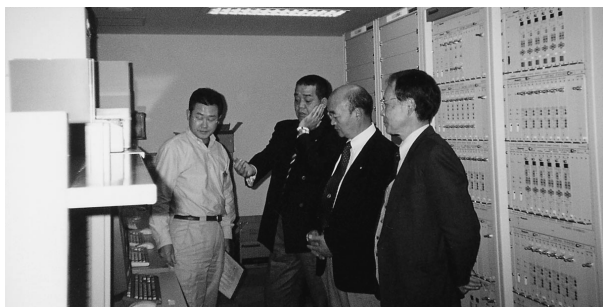
平成14年11月6日、「ITを活用した街づくり」の研修のため北海道紋別郡西興部村を訪問しました。

西興部村は人口1267人、660戸の小さな村ですが、地域は本村の約7.5倍あります。

この村を研修地に選んだ理由は、世界初、もちろん日本でも初めて村が全戸、全地域に光ケーブルを敷設、各種高度情報化施策を展開しているからです。

平成11年度から14年度までに総額17億円を投入、農業気象情報、牛舎遠隔監視、農業経営支援、自主放送、高齢者福祉、緊急音声、学校間交流、地域コミュニケーション等各種のサービスを展開されています。

テレビは35チャンネル、インターネットやEメールが自由に利用(月600円)出来ることから、若い人に



人気で人口減少が止まったそうです。

情報化社会の進展はめざましいものがあり、今のままでは本村は情報化社会の過疎地になる可能性があります。

公明党

昨年11月18日・19日に河

南町・太子町の議員5名と私の6名で、鳥取県米子市にある「ゆうゆう壺番館(なご)」を視察しました。当施設は、長い間がんばってこられた人達に第2の人生をゆうゆう自適に過ごしていただくとう建設された高齢者向け施設であります。内容はペットが飼える1戸建コテージが5戸とマンション風の部屋が54戸でした。しかしマンション風といっても、イメージとしては高級ホテルの感じでした。風呂は天然温泉で、食事や余暇は自由に過ごしてもらえよう工夫されていました。医療面では「診療所と訪問看護ステーション・在宅介護支援センター」が併設されており、近くの山陰労災病院とも提携していました。入居費用は終身利用権で2100万円から3200万円と少し高めですが、契約後15年以内に死亡あるいは退去する場

編集委員会から

お知らせ

議会だよりは、5・8・11・2月の年4回発行しています。編集委員会では、みなさんから各号にふさわしい表紙を飾る写真をお願いすることになりました。

千早赤阪村をアピールできる作品をおまちしています。

「連絡は議会事務局へ」

☎720081代



合は月割りで返金するシステムになっています。本村 してもと思いました。

編集後記

村民のみなさまには健康に新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は市町村合併に明け暮れた一年でありました。4市町村による協議会は現在中断していますが、4月の富田林市の選挙が終わればまた再開されます。

村の小学校について、昨年10月に審議会から「一校統合」という答申が出されました。

12月議会の一般質問では、本誌でもおわかりのとおり、この2点について多くの質問がありました。

財政がいよいよ厳しくなり、高齢化と少子化が進んでいるこの村を、どのようなかたちで子孫に送り伝えてゆくの。いま議会には大きな責任ある判断が求められています。

私たち一同は、心新たに皆さんの負託に応えるべく努力をして参りたいと思います。

H・K